



平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

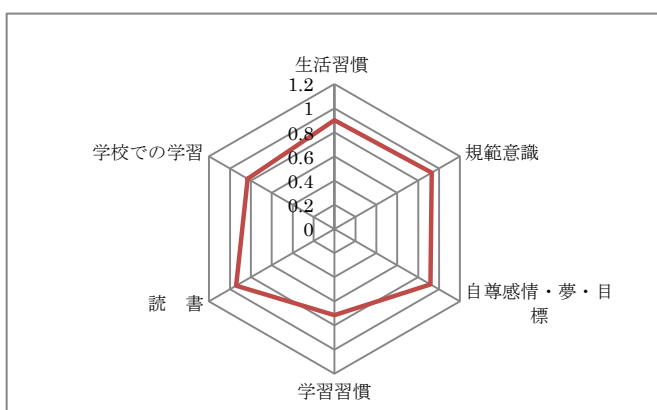
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	漢字やローマ字の読み等、言語知識理解の基礎はできていた。文章を書く力を向上させるため、書く活動の習慣化が必要である。	下回っている
国語B	自分の考えを記述する力に課題がある。話を聞き、話の展開に沿って質問する等の話す・聞く力の向上も必要である。	下回っている
算数A	基礎的な計算力については、理解が高まってきていて取組の成果が出ている。割合をはじめ他の領域についても定着を図る必要がある。	下回っている
算数B	数量や計算についての知識・理解が高くなり、応用できるようになっている。問題の意味を考え、順序立てて記述していくことに課題がある。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・テレビやゲームの3時間以上の長時間の使用が、全国平均に比べ多い。 ・携帯電話やスマートフォンでインターネットやメールを使用する時間が、1日4時間以上である割合が全国平均の約3倍になっている。 ・1日1時間以上家庭学習をする児童の割合が、全国平均の約6割という結果であった。予習・復習等計画的に家庭学習に取り組んでいる割合も全国平均より低く、家庭学習習慣の定着が必要である。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

算教科において、授業時間の中で必ず練習問題までおこない、計算力をはじめとする基礎・基本の確実な定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

葛原スタンダードを参考に、保護者と連携しながら、宿題プリントや自学ノートの活用に努め、家庭学習の定着をめざす。